

認知症のタイプと 主な特徴

認知症のタイプは大きく分けて4つあります。原因となる脳の病気は様々で、最も多いのがアルツハイマー型認知症で約67%、次が血管性認知症で約20%となっています。

アルツハイマー型認知症

初期症状でもの忘れ / ゆっくりと進行する / 道に迷いやすい
嗅覚が衰えやすい / 作り話をすることがある

血管性認知症

高血圧による動脈硬化が危険因子 / 意欲が低下しやすい
泣きやすいなど感情のコントロールがしにくい

レビー小体型認知症

手足の震えや筋肉の硬直で転びやすい / 夜中に夢を見て騒ぐ
人や動物などの幻視がはっきりとあらわれる

前頭側頭型認知症

抑制が効かなくなり万引きなどの反社会的な行動が増える
同じ言動を繰り返す / 興味や関心が薄れやすい

認知症の早期発見のめやす

- ☑ 同じことを何度も言う、問う、する。
- ☑ いつも探し物をしている。
- ☑ 財布や通帳などを盗まれたと疑う。
- ☑ 料理や運転などのミスが多くなった。
- ☑ 話のつじつまが合わない。
- ☑ テレビの内容が理解できなくなった。
- ☑ 慣れた道でも迷うことがある。
- ☑ ささいなことで怒りっぽくなった。
- ☑ 外出時、持ち物を何度も確かめる。
- ☑ 身だしなみを構わなくなった。

認知症地域支援員が認知症の方とその家族をサポート

認知症地域支援推進員は、認知症の方が住み慣れた地域で安心して暮らせるよう、医療機関や介護サービス、地域の支援機関などをつなぐコーディネーターの役割を担っています。また、認知症の方やその家族のサポート・相談や、認知症を正しく理解してもらうための認知症サポーター養成講座なども行っています。認知症に関することでお悩みの方は、気軽にご相談ください。

- 町地域包括支援センター
もの忘れや認知症に関する相談
☎ 52-4690
- 高齢者支援課 高齢者支援係
☎ 53-1111 (内線2173)

「認知症になったらどうしよう…」
と不安を抱えている人も
「助けてくれる人がいるから安心」
と思えるような地域にしたいです

また、「じぶんごと」として
認知症を正しく理解してほしいです
一人で悩まず
いつでも気軽に相談してくださいね

町地域包括支援センター
認知症地域支援推進員

高柳 さゆり さん



認知症を知る

高齢化が進んでいく日本——。

2025年には、65歳以上の5人に1人、約700万人が認知症になると言われています。誰もがなりうる「認知症」という病気を「じぶんごと」として考えてみませんか。認知症について、認知症地域支援推進員がシリーズでお伝えしていきます。

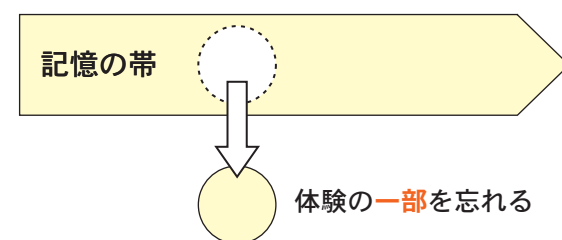
認知症って どんな病気？

認知症は脳の病気です。脳の細胞が死んだり働きが悪くなったりすることで、記憶や思考などの能力が少しずつ低下し、日常生活に支障が出る状態をいいます。脳のどの部位に障がいがあるかで、認知症の症状も変わってきます。

もの忘れと 認知症の違い

加齢によるもの忘れは、例えば、うっかり約束を忘れる、食事をしたことは覚えているが何を食べたか思い出せない、思い出すのに時間が掛かるなどですが、認知症によるもの忘れは、約束したこと自体を忘れたり、食事をしたこと自体を忘れたりします。

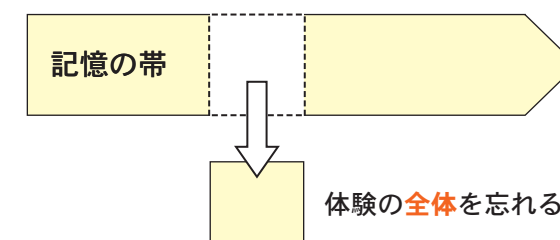
加齢によるもの忘れ



POINT

- ヒントがあれば思い出せる
- もの忘れをしている自覚がある
- 記憶力の低下
- すぐには進行しない
- 他の精神症状は伴わない
- **日常生活に大きな支障は出ない**

認知症によるもの忘れ



POINT

- ヒントがあっても思い出せない
- もの忘れをしている自覚がない
- 記憶力・判断能力の低下、時間感覚のずれ
- 進行する
- 他の精神症状を伴うことが多い
- **日常生活に支障が出る**